

研究・調査報告書

| | |
|--|-------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 485 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Patterns of alcohol consumption and ischaemic heart disease in culturally divergent countries: the Prospective Epidemiological Study of Myocardial Infarction (PRIME). 文化的に異なる国々における飲酒摂取行動と虚血性心疾患との関連 : the Prospective Epidemiological Study of Myocardial Infarction (PRIME)。 | |
| 執筆者 | |
| Ruidavets JB, Ducimetière P, Evans A, Montaye M, Haas B, Bingham A, Yarnell J, Amouyel P, Arveiler D, Kee F, Bongard V, Ferrières J. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| BMJ. 2010;341:c6077. | |
| キーワード | |
| 飲酒行動、虚血性心疾患、文化 | |
| 要 旨 | |
| 目的： 虚血性心疾患における飲酒摂取行動の影響について、北アイルランドとフランス、生活様式が対照的な二国間で、調査を行うことである。 | |
| 方法： 文化的に異なる 2 つの地理的地域 (北アイルランドとフランス) から得られたコホートデータを用いて、50 歳から 59 歳の 9,778 人の虚血性心疾患を有さない男性を対象とした。10 年間の前向き調査で、基礎特性と心筋梗塞、冠動脈死亡および狭心症発症との関連について、COX 比例ハザードモデルを用いて評価した。 | |
| 結果： アイルランド人男性では、61%が週 1 回以上飲酒し (12%は毎日)、9.4%は大量飲酒者であった。フランス人男性では、91%が週 1 回以上飲酒し (75%は毎日)、0.5%が大量飲酒者であった。飲酒者の 1 日の平均アルコール摂取量は、アイルランドでは 22g、フランスでは 33g であった。10 年間のフォローアップ中に、男性 1,000 人あたりの心筋梗塞の年間発生件数は、アイルランドで 5.6 件、フランスで 2.8 件であった。定期的に適量を飲む飲酒者と比べて、大量飲酒する者 (ハザード比 [hazard ratio : HR] 2.0)、飲酒をしたことのない者 (HR 2.0)、元飲酒者 (HR 1.6) では補正後の心筋梗塞と冠動脈死亡のリスクが有意に高かった。定期的に適量を飲む飲酒者では、ワインを飲む人は飲まない人に比べて、心筋梗塞と冠動脈死亡リスクがより低かった。ビールなど他のアルコール飲料では、飲む人と飲まない人を比べても、一定の関連は認められなかった。 | |
| 結論： 飲酒しないことと比べて、定期的な適量のアルコール摂取、つまりはフランスの中年男性に当てはまるが、より低い心筋梗塞と冠動脈死亡リスクと関連し、一方、大量の飲酒はより高いリスクと関連する。 | |